



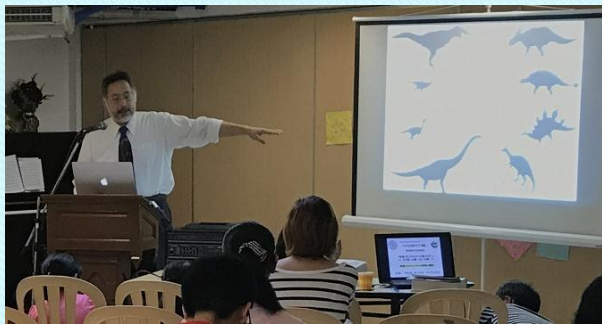
MJCC マニラ日本語キリスト教会

神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。
(ローマ人への手紙 1 : 20)

MJCCのメンバーの子供たちは、現地校、インターナショナル スクール、そして日本人学校で学んでいます。夏休みが4月から8月末までにマチマチ、バラバラです。この4か月誰かが“夏休み”でマニラ不在ということでなかなか落ち着かない感じでした。9月にやっとみんなが揃ったら、フィリピンは世界一長いクリスマスシーズンに入り、またもやなんとなく落ち着かなくなってきました。その中でも主の御手がMJCCを支え、特別に目を注いでいただいていることを覚え感謝しつつ主の恵みをここに報告させていただきます。



聖書創造論



ジェネシス・ジャパン（聖書の天地創造の視点に基づく資料の提供、講演・セミナーをする団体）をご存知の方も多くおられるかもしれません。その会長である宇佐神 実（うさみ みのる）先生はフィリピンのイロイロ島にある大学、神学校、教会等で奉仕されるために来比されたのですが、その前にマニラに立ち寄り、9月2日にMJCCで教会学校と礼拝で奉仕してくださいました。

教会学校では、“聖書と恐竜の話を知ろう！”というチラシを作成し宣伝しました。当日、恐竜のTシャツを着て来たり、恐竜図鑑を持って来た子供たちもあり、宇佐神先生も恐竜のデザインのネクタイ着用でわかりやすく楽しく話してくれました。

こんな感じで…



『聖書の中に、恐竜という言葉が出てきますか？』聖書の中には、出てきません。『恐竜』という単語ができたのは、約150年前ぐらいです。恐竜という単語は聖書に出てきませんが、本当の恐竜は聖書の中に見つかります。（例：ヘブル語の「ベヒモス」は、カバと訳されているがカバではなく 杉の木のような尾を持っていた恐竜である。—ヨブ記40章から—）

『恐竜は人と同じ時代に生きていたのでしょうか？』進化論者は、恐竜は2億3千万年前に生息し、6600万年前に滅んだというが、聖書を信じる科学者たちは、恐竜は、約6000年前（創造の第6日）に造られたと信じています。『あなたは、どちらを信じますか？ 古代洞窟の中にあつた壁画に、恐竜の絵が発見されました。恐竜を見たから書いたのだと思いませんか？』……恐竜という言葉はないですが、聖書の中にはたくさんの恐竜がでています。』

礼拝では、「創造主の技術」という題で、素晴らしい技術開発は創造物（動物、植物など）を研究されてきたことを身近なものから紹介してくれました。創造主を認め、また、聖書の神様の素晴らしさを伝えていくことの大切さを思わされました。また、交わりの後も質疑応答をしていただき、更に詳しく創造論への確信を持つことができました。

尚、ジェネシス・ジャパン (<http://genesisjapan.com/>) のウェブサイトを参照ください。

セレブレーション伝道大会への準備

先回のグレース新聞でお分かちしたようにMJCCは働きを4つの柱にし、これからの教会の建て上げをしていくようにチャレンジを与えられています。その一つ、“宣教・伝道”の具体的な活動として来年2019年2月15日－17日に開催されるウィル グラハム師（ビリー・グラハムの孫）による大きな伝道大会に参加することになりました。この伝道大会に参加することは、ただ出席するというものではありません。具体的に一人一人が個人的に福音を伝えることができる訓練を受け、また信仰に導きまたその後のフォローアップができるようになるためです。すでに10月から毎日曜日に「クリスチャンの生活と証しコース」の訓練をする予定が立てられています。救いに導きたい一人一人の名前を挙げて、祈りを共にしていくことも大きな働きの一つです。伝道について今まで具体的に訓練されたことがなかったところでこのようなチャンスが与えられたことに感激しています。主のタイミングにハレルヤ！



父の日礼拝&母の日礼拝

今年のMJCCの「母の日」&「父の日」礼拝は、共に「歌とダンス」による賛美を行いました。

母の日礼拝では「キリストのからだだから」を、男性陣がなかなか激しい動きがある振り付けを精一杯、心と力を尽くして賛美しました。

女性陣は、その姿に感化され、父の日礼拝では自称フラダンス風の踊りを添え賛美「花も」を歌いました。それぞれの賜物が生かされ、練習の時間は不十分でも主にあって一致が与えられ感謝の中で備えることができました。

教会学校からは、デコパージュで手作りの、母の日には聖書モチーフの羊やハートなどをあしらったキャンドルと石鹸、父の日にはノートがプレゼントされました。

「しかし、私は主によって喜び、わが救いの神のゆえに踊る」(ハバクク3:18) 恵み溢れる賛美となり感謝しています。



役員の一泊合宿



6月23日、土曜日の午後から翌日曜日の昼食時まで4人の役員が馨先生のお宅に集まりました。

大きな成果としては役員が毎週インターネットのアプリを使い、祈り会を週1回持つということが決められました。現在は早朝の4:30amに、主の守りの中で祈り会が継続しております。

学びとしてはテモテ第一3章及びテトス1章5-9節を用いてリーダーの資質の基準と照らし合わせ自己分析を行いました。ふさふしくないことについて変えていただくための準備の時となっています。

一泊という事で十分な時間を与えられて役員皆で集中して話し合いを進めることが出来、大変充実したみことばの学びを行うことが出来、普段の忙しい時間とは違いより深くお互いを知ることができ、役員的一致にも繋がると感じました。

神様、皆で過ごせた楽しい時間をありがとうございます。そして馨先生のおいしい手料理にも感謝します。

マニラ・バンコクグリークラブ合同コンサートでの特別賛美

7月28日(土)の午後、MJCCがお世話になっているユニオンチャーチの小ホールで、日本人が中心で構成しているマニラとバンコクのグリークラブの合同合唱コンサートが開かれました。マニラグリークラブに所属するクリスチャンの方が配慮してくださって、ユニオンチャーチでするのでMJCCを紹介するために賛美をしたらどうかというお誘いを受けました。

よく練習と訓練を重ねて磨かれているグリークラブの方々のお客様の前で囃々しくも?歌うことになったMJCC有志12名は「花も」と「God Bless You」を賛美しました。また、教会案内やトラクトを出席者の方々にお渡しできるチャンスも与えられたことを感謝しています。今後も、このような機会があれば祈りによって備え、愛を持ってイエス様を伝えたいと思っています。



天に召されたヴィテルボ悦子さん



「マナの会」の前身の時から、約25年間ずっと出席されたヴィテルボさんが9月6日に天に召されました。86歳でした。ヴィテルボさんは、フィリピン人のご主人と日本で知り合い、結婚し、60年近く前にフィリピンに移住されました。最初のフィリピンの生活は大変だったと聞いていましたが、5人のすばらしいお子さんに恵まれ、また、お孫さんも、ひ孫も与えられました。ジューン先生と出会い、MJCCの通読表でずっと聖書を毎日読み、マナの会は彼女の中では最も大切なみことばの学びの場でした。ジューン先生とは住まいが近く、長年、毎週のようにジューン先生のメッセージの日本語をチェックしておられました。召される1か月ほど前まではマナの会にも元気で出席されたのに、急病で駆け足で逝ってしまいました。「マナの会」は少し寂しくなります。

いつも感謝です、と明るかったヴィテルボさん、天国でまたお会いしましょう!